

演題名	管内乳用牛の血清生化学所見		
発表者 氏名	小林憲一郎	所属	伊那家畜保健衛生所
<p>当所では 2006 年、臨床的に健常な管内成乳用牛の血清生化学基準値を提唱し、一般依頼検査回答等に活用。2013 年、再提唱を試みるため、事業等で当所が採材した健常牛 36 戸 176 頭について最大 11 項目（TP、Alb、Glu、BUN、T-Cho、Ca、iP、GOT、CPK、GGT、Mg）を測定。2013 年の平均値は 2006 年のそれと比べ iP が有意に高値（$p < 0.05$）。この 2013 年の測定値を基に 11 項目について新たな基準値（新基準値）を提唱。2012 年 4 月から 2013 年 11 月まで 297 件の一般依頼検査結果を新基準値（Mg 以外の 10 項目）と比較。分娩後 1 か月以内（187 頭）では、新基準値と比較し、低 iP が 54.1%（85 頭中 46 頭）、低 T-Cho が 49.4%（160 頭中 79 頭）、低 Ca が 43.3%（120 頭中 52 頭）。周産期はエネルギー不足と低 Ca による疾病リスクが高いと推察。新基準値と依頼検査結果を比較考察することは、診療獣医師による病態の把握あるいは早期診断の一助になるものと思料。</p>			